

CNAC 第6回全国フォーラム

「人と海とのつながり—それでも海から学んでいこう—」

日時 平成24年2月4日(土) 13:00~17:00

場所 東京海洋大学・品川キャンパス(楽水会館)

司会 大変お待たせを致しました。ただ今より、特定非営利活動法人海に学ぶ体験活動協議会・第6回全国フォーラムを開催いたします。本日はお忙しいところご参加いただき、誠にありがとうございます。わたしは、本日司会役を務めさせていただきます、CNAC事務局の西土井と申します。どうぞ、よろしくお願いいたします。

はじめに本日のスケジュールをご案内いたします。最初にCNACの活動報告をいたしまして、次に「海と共に生きる」というタイトルのもと、NPO法人森は海の恋人・副理事長の畠山 信さまより東日本大震災の被災からの復興に係る基調講演をいただきます。

その後休憩を挟みまして後半は、「それでも海から学んでいこう」というテーマのもと、パネルディスカッションを行いまして、その後、パネラーの皆様、会場の皆様と共に、全体討論を行いたいと考えております。そのほか夕方からは別会場にて交流会も予定しておりますので、ご参加のほどどうぞよろしくお願いいたします。

それではさっそく開会のあいさつにうつります。開会のあいさつは、CNAC代表理事の海野義明よりあいさつを申し上げます。海野代表よろしくお願いいたします。

開会あいさつ

海に学ぶ体験活動協議会 代表理事 海野義明

ただいま御紹介に預かりました、CNAC 海に学ぶ体験活動協議会の代表を務めさせていただきます海野義明です。本日はお忙しい中、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。東京は昨日までと打って変わって大変温かい日を迎えましたけれども、雪国の降雪、それから、被災地の環境を思うと、心が痛みます。東日本を大震災、津波が襲い、そろそろ一年が経とうとしております。皆様、この1年いかがお過ごしでしたでしょうか。本フォーラムは被災の地から、災害復興真っ只中の大変な中、3名の方に来ていただき、また、海の仲間として被災地支援の活動をしている、1名の

方をお招きしてフォーラムを開催いたしたいと思います。フォーラムを始めるに当って、皆様の 1 年の振り返り、そして、亡くなられた方の鎮魂ならびに被災地の復興を願い、1 分間の黙祷をしたいと思います。お付き合いの程お願いいたします。では黙祷いたします。(黙祷)ありがとうございました。

今回の大津波は、東日本のみならず、日本全国に大変な海の転機を及ぼしました。特に、海で活動し、また、沿岸地域にとっては、大変な影響があったと思います。ここでもう一度人と海をつながり、海から学ぶということテーマに、4 名の講師の方々からお話しをお聞きして、そしてそのテーマを、ご来場の皆様と共に紐解き、そしてもう一度紡ぎ直す、そういったフォーラムに本日していただければなという風に思います。挨拶をお願いに変えて本フォーラムの開始を致したいと思います。本日は皆様よろしくお願いいたします。

司会 海野代表ありがとうございました。続きまして、ご来賓よりご祝辞を賜りたいと思います。国土交通省 港湾局 国際・環境課 港湾環境政策室長 小池慎一郎さまより、ごあいさつをいただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

来賓あいさつ

国土交通省 港湾局 国際・環境課 港湾環境政策室長 小池 慎一郎

みなさんこんにちは。国土交通省港湾局の小池と申します。僭越ながら、私からご挨拶を一言申し上げたいと思います。今日は先ほど海野代表からもありましたように非常に温かい日でございます、こんな格好をしてくるのがちょっと恥ずかしいというか勿体無い気がしているんですけど、折りしも立春ということでございまして、これから春、それから夏に向けて、海に触れ合う機会が増えるシーズンでございます。こういった機会にこの会が盛大になされることに関しまして、まずはお祝いを申し上げます。

東日本大震災及び大津波から 11 ヶ月がそろそろ過ぎようとしております。今日パネラーの方の中にも、被災地の方からお見えになった方も居ますし、またそれ以外にも今日お集まりなされた方の中で直接間接に被害にあわれた方多いかと思っております。改めてお見舞いを申し上げたいと思います。それから復興に向けた多大なる取り組みに関しまして、改めて敬意を表したいという風に思っております。

その地震、それから津波の後、レクリエーション、レジャーという観点から言います

と、海離れが進んでいるという風に言われております。確かに昨年のいろいろな光景を見ても、首都圏で言いますと、例えば茨城県、千葉県、海水浴の入場者数、前年に比べて茨城県では例えば 90%減っておったり、千葉県でも 50%減っておると、言うようなデータも出てはおります。一方で、同じ首都圏の中でも神奈川県のある市・町のデータを見ても、まあ減ってはいるんですけど、10%、15%くらいということで、どこに否があるのか、夏は台風も参りましたので、そういった影響もあるのかな、ということも思っておりますけど、データは築いていかなければいけません、いずれにしても、なんらかの影響はあったのではないかなという風には考えております。もとより、子供の海離れと申しますか、海であるとか、環境であるとか、そういったものに対する気持ち、心を育てる、育む機会が減っておると言われてございます。今回のこういったことによってそういった傾向がさらに続くことを非常に懸念しております。そういった折に、人と海とのつながり、それでも海から学んでいこう、ということで今日こういったテーマを掲げてフォーラムを開催することについて、非常に心強く思っている次第であります。

今日のこのフォーラムでまた講師の皆様から力強い、元気の出る話も聞かせてもらえらると思っておりますので、ぜひ、幅広い人々に支援ではございませんけど、そうだ海に行ってみようという気持ちをもってください、また、CNACにご参加の団体の皆様あるいは関係の皆様方の、環境教育であるとか体験活動であるとかそういったものが幅広く認識されて、活動が益々発展することに繋がっていけば非常に良いかなという風に思っております。私ども国土交通省もですね、海の環境という意味では、東京湾をはじめとした再生に取り組んだり、海辺の自然学校というものを全国で開催したりしておりますけれども、そういった取り組みも、今日お集まりの皆様方のような、実地で活動されている皆様方のお力添えがないと中々進んでいかないと感じておりますので、今日の機会にますます連携を図っていただければなという風に考えております。

最後になりましたが、本日のフォーラム、皆様方の熱意で、ぜひ実り多いものとなりますことを祈念いたしまして、簡単ではございますが、ご挨拶に変えさせていただきます。どうもありがとうございました。

司会 小池さま、ありがとうございました。

それでは続きまして、CNACの活動報告でございます。CNACの活動は、CNA

C理事の神保よりご報告をさせていただきます。神保理事、よろしくお願いいたします。

CNAC活動報告

海に学ぶ体験活動協議会 理事 神保 清司

みなさまこんにちは。CNACの理事をおおせつかっております、千葉自然学校の神保と申します。CNACの設立から現在までの活動報告の方を簡単にパワーポイントにてご報告いたします。

まずCNACという名称でございますけど、特定非営利活動法人 海に学ぶ体験活動協議会ということで、英語の **Council for Nature Activity along the Cost** との頭文字を取りまして、通称CNACということで活動しております。

組織・活動体系でございますが、NPO法人、市民団体、それから行政、学校、企業、それから一般個人の皆様、いろんな方たちとネットワークを組んでここにありますような活動内容で、普及活動ですとか、ネットワーク推進交流支援、安全対策促進、指導者育成、自立化支援、調査研究事業ということで活動しております。

現時点での会員数でございますが、会員総数 **79** 団体個人でございます。正会員の団体が **37** 団体、正会員の個人が **1** 名、賛助会員の団体が **8** 団体、賛助会員の個人が **33** 名ということになっております。

活動理念でございますが、豊かで美しい海を次世代に継承し持続可能な社会を創造していくためには多くの人々が海辺の自然を楽しみつつ、海への理解を深め、海辺の環境を保全することの大切さを学ぶことが必要です。このため、私たちCNACは、海辺の自然体験活動を活性化します。続いて、CNACは、海辺の自然体験活動を推進する団体および幅広い個人の交流を支援し、海辺の自然体験活動を支える指導者を育成する他、海辺の自然体験活動を円滑に推進するための調査研究や、普及啓発をはかり、良好な海辺の環境の保全、及び創出に務めます、と。

活動計画としましては、ネットワークの支援・拡大と、情報の収集発信ということで、HP、それからメールマガジン等で情報を発信をしております。それからいろんな全国で行われております多種多様な海辺の活動、イベント等、有益な助成金制度等の情報も合わせて会員の皆様に発信をしておるところでございます。

次に安全対策の支援ということで、海辺の活動に対する安全対策、その中での危険予知、安全管理、救助法、救急法、保険の加入などについて、講習会、研修等を通して技

術の向上を図り、より安全性の高い活動を普及をします。

3つ目として、指導者研修の開催、ということで、指導者養成講座に必要な人材を育成する研修などを開催することにより、今後増大する海辺の自然体験活動指導者の質の向上を図ります。

それから、会員団体の支援。全国で実施される活動の連携を推進したり、各種イベントの後援、会員の活動を支援しております。

調査研究事業の実施ということで、会員主催の指導者養成講座のプログラム作成ですとか、海辺の自然体験活動ガイドブック、安全対策マニュアル等の作成を行っております。

設立の沿革でございますが、平成18年5月に任意団体として設立をされ、翌19年1月に全国フォーラムを東京で開催いたしました。4月に法人登記と成りまして、5月に設立総会を開催いたしました。平成20年、第2回の全国フォーラムを、佐賀県唐津市で開催いたしました。同じく2月に安全教育に関するワークショップを横須賀で行っております。夏は全国4箇所にて親子海あそび安全講座を開催しております。7月は埼玉県にて海辺の自然体験活動のリーダーになる人の安全セミナーを開催しました。翌21年1月に第3回全国フォーラムを都内で開催をし、夏には全国フォーラム8箇所でも同じく親子海あそび安全講座を開催いたしました。その年の10月に第4回全国フォーラムということで、こちらは北海道の小樽で開催をされています。平成22年につきましては、こちらも全国8箇所海あそび安全講座を開催をし、翌23年は、第5回全国フォーラムを都内で開催いたしました。夏には安全講座、それから指導者講習会等を開催しております。9月には、文部科学省委託事業であります、自然体験活動指導者養成事業ということで、海辺の達人養成講座を神奈川県にて開催いたしました。そして、現在ですね、今年の全国フォーラムを開催中ということになりまして、明日、虎ノ門の事務所の会議室で、学校支援指導者、全体指導者及び補助指導者の養成講習会も開催予定でございます。こちら、おかげさまをもちまして、満員という状況でございます。

日々の活動状況でございますが、ホームページの充実、メールマガジンの配信、自然体験活動に関わる指導者の育成、安全対策の促進事業、小冊子等の配布をしております。それから調査研究事業等を行っているということでございます。

ホームページの方でございますが、最近ちょっと内容、デザインが変わりましたけれど、リニューアルされております。CNACという風に検索をしていただければ出ます

ので、ぜひご覧いただき、全国各地のイベントの情報でありますとか、助成金情報等はこちらにて皆様向けに告知をしておりますので、ご活用のほどよろしく願いいたします。

メールマガジンの方も「うみ＊にゆう」ということで月一回発信をしております。ホームページの方からご登録いただくこともできますので、ぜひご登録の方お願いいたします。

自然体験活動に関わる指導者の育成としまして、安全ワークショップ開催の例ということで、救急法の講習、ファーストエイド蘇生法、AED等を使った講習、それから、海辺の安全管理と簡単なレスキュー手法の教授ということで、こちらCNAC主催で、安全委員会の方と、協力団体として、日本安全潜水教育協会、着衣泳協会の方と連携をして、指導者育成を行っております。このような形で、プール等を使って講習会を実施しております。

それらの講習会等々で使う教材としまして、安全対策の促進事業で作成いたしましたのが、海あそび安全講座の小冊子の作成と配布を行っております。子供向け、それから親子向けということで2種類日本財団の助成をいただき作成をいたしまして、ここにありますような発行部数ということで、作成をいたしました。おかげさまで、内容がこんな形で、子供達にもわかる海での安全な遊び方ということで作成をしております。こちらの子供向けの冊子の方は、残りの数が本当にもうわずかというくらいまでご好評をいただき、活用をいただいているという状況のようです。とにかく浮かんで救助を待ちましょう、ということをおぼたための教材です。気をつけたい、海辺の生き物達ということで、それから波についてもこのような子供に親しみやすいような書き方で表現をしております。

こちらが、指導者向けの冊子でございますので、こちらの方はまだ残部が多少事務局の方でございますので、ぜひ講習会等で活用してみたいという方は、事務局の方にお問合せをください。大人向けですので、多少こういう知識的なところも入っております。非常にわかりやすく書いてございますので、ぜひ一度ご覧頂いて、それからこれが海あそび安全講座の平成20年度からの開催でございます。平成20年度は全国4箇所ですね、21年度が全国8箇所で開催をしております。22年度も8箇所で開催をしております。現地の団体と、それからCNACの理事、安全部会の人間が現地へ飛んで共同で講習を実施をさせていただいております。23年度は海あそび安全講座を開催するための指導者

のための研修会を開催しております。三浦ふれあいの村で 13 名の参加者、日本全国から、ダイビング関係、シーカヤック関係の方が集まって開催をしております。こちらは同じく昨年秋に開催しました、海辺の達人養成講座の様子でございます。

以上、設立から現在までのCNACの活動報告でございました。今後ともCNACをよろしく願い申し上げます。ありがとうございました。

司会 神保理事ありがとうございました。CNACを今後ともよろしく願い申し上げます。それでは続きまして、基調講演に移りたいと思います。

今回は、NPO 法人 森は海の恋人・副理事長の畠山信（はたけやま まこと）様に基調講演をお願いいたしました。テーマはこちら、「海と共に生きる」ということでお話をいただきます。講演前に私から簡単に畠山様の略歴をご紹介します。1978年 気仙沼市生まれ。地元の高校を卒業後、C.W. ニコルさんが実習長を務められる専門学校に入学され、卒業後は、鹿児島県 屋久島で環境教育に携わられました。その後 帰郷され、牡蠣漁師として生活しながら 2009 年に特定非営利活動法人 森は海の恋人を設立されました。2011 年 3 月、東日本大震災で被災され、全国各地から訪れる災害支援団体や、ボランティアの受け入れ調整に奔走されています。震災後も気仙沼の唐桑地区を中心に、持続可能な地域づくりを目指されており、大変ご多忙の中、本日のCNAC全国フォーラムにお越し頂きました。畠山様は、NPO 法人自然体験活動推進協議会、通称CONE と言いますが、このCONEの理事、それから指導者トレーナーも務められています。

以上、簡単ですが、畠山様のご紹介をさせていただきました。それでは、お待たせいたしました。畠山信様の基調講演です。畠山様、よろしくお願いいたします。

～基調講演 および パネルディスカッション(別紙)～

小池 それでは本日のプログラムは終了とさせていただいておりますが、一時間後、18時から懇親会の席が設けてあるようでございますので、お申し込み頂いた方はぜひそこでまたご出席のパネリスト、ご参加の皆様とお話出来る機会があればなという風に思います。それでは、パネリストの皆様、どうもありがとうございました。

司会 パネラーの皆様、会場の皆様、長時間に渡りまして、熱心な討議をありがとうございました。皆様の熱い思いが、東北の復興を推し進めると思いますし、私たち海に学ぶ体験活動協議会としても、今回の得られた情報を全国に発信していきたいと思ひます。ありがとうございました。

これから閉会のあいさつに移りますが、閉会のあいさつの後、ご出席の皆様全員で記念写真を撮りたいと思ひますので、挨拶が終わりましたら前の方に一度お集まりいただきたくお願いいたします。

それでは、閉会のあいさつは、C N A C 副代表理事の三好利和よりご挨拶申し上げます。三好副代表理事お願いいたします。

閉会あいさつ

海に学ぶ体験活動協議会 副代表理事 三好 利和

御紹介いただきました三好でございます。基調講演の畠山さん、それからパネラーの三方と、どうもありがとうございました。最後であります、ちょっと会場の皆さんにお聞きしたいのですが、今日、被災地の方々お越しいただきました。既に、まもなく一年経ちますが、今回ですね、初めて被災地の方の生の声でこういったご報告を聞かれた、今日が初めてという方いらっしゃいますか。

はい、ありがとうございます。何人かいらっしゃるかと思います。来月で一年になるんですけど、いろんな情報で今回の震災については、目に、耳にしてきたかと思うんですが、やはりこうやって直接お話を聞くということは、それとはまた違った物があると思うんですね。私も現地の方に行きましたけれど、一年経とうとして、まだまだこれからという状況は変わらないところで、その中身もどんどん変わっていく、やはり日本人として、この状態になんとか力をかけていかなければいけないというのは間違いないと思ひます。

先ほど最後出ました、放射能の問題もそうですけれど、当協議会は、今回あえて、「それでも海から学んでいこう」というテーマを掲げましたので、海に囲まれている日本でございますから、やはり海を、いろんな意味で学びの師としてですね、これから活動を

進めていきたいと思っております。それに、協議会としても出来ることを考えて今後活動を続けていきたいと思っておりますので、ぜひ、今回初めてご参加された方もいらっしゃるかと思いますが、お力をいただいて、みんなで海からいろんなことを学びながら、日本を、世界を良い状態に、持続可能な状態にしていきたいと思っておりますので、今後もよろしくご協力をお願いいたします。

本日は寒い中、ご参加いただきまして、本当にありがとうございました。

司会 ありがとうございました。それではこれでプログラムはすべて終了です。写真撮影をしますので、皆さん前の方にご集合ください。

(以上)